

【事業の名称】(選定年度2020年度・(タイプA②))
 プラネタリーヘルスの実現に向けた日ア戦略的共同教育プログラム

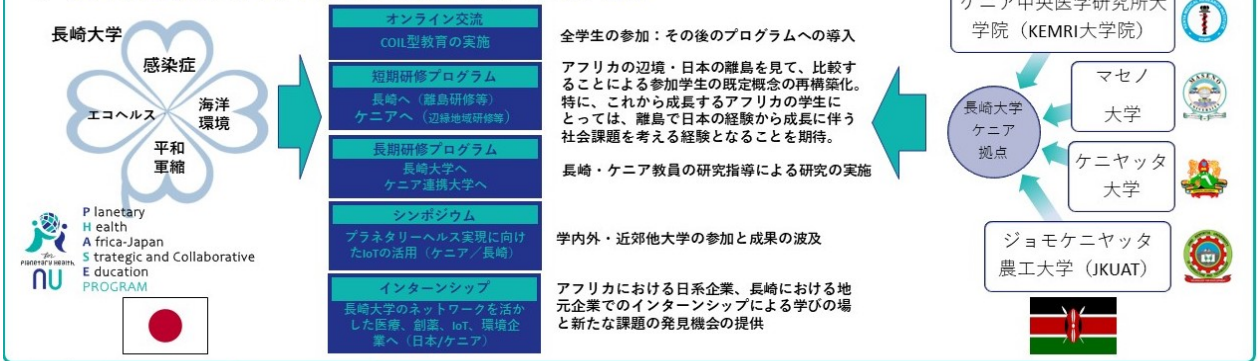
【交流推進事業の概要】

PHASE プログラム

目的: 地球の健康に関するアフリカとの機動的かつ戦略的大学間ネットワークを構築し、日本とアフリカの架け橋となり、地球規模の課題解決に向けた協働活動を指導的な立場から展開できる人材の育成。

内容(インプット):

- ① プラネタリーヘルス、4テーマに関する講義・プログラムに参加し、異なる背景を持つ同年代の学生と切磋琢磨し、地域、母国、世界での自分に何ができるか考え、さらに
- ② 日本人は英語で学ぶ、アフリカ人は日本語を学ぶ、プログラムの提供



達成目標:

アウトプット: 『地球の健康に関する課題解決を牽引する人材の養成』
 目標: 『日ア延べ95名(派遣47名、受入48名)の学生交流』とする。アウトカムは、『地球の健康の実現』

アウトカム: 『地球の健康の実現』

目標: 『育成した人材がケニアのその他大学・研究機関と学際的に連携して、地球規模の課題解決に向けた教育研究活動を活性化させ、先導的活動を展開し、次世代人材育成につなげていくサイクルの構築』

【交流プログラムの概要】

本学は、『Planetary Health(地球の健康)の大学』を標榜し、地球規模の問題の対応・貢献を目指すために全学をあげた教育研究体制の整備と人材の育成を目指した「プラネタリーヘルス」プログラムを構築している。中でも、アフリカとの長い歴史をもつ本学は、アフリカでの医療保健と人間の安全保障の問題に注視した人材の育成を推進しており、人的交流も盛んである。これらを踏まえ、本プログラムは、(1)オンライン交流プログラム、(2)短期研修プログラム、(3)長期研修プログラム、(4)シンポジウム・プログラム及び(5)インターンシッププログラムを構成し、(2)~(5)については、実際に日本/ケニアへの渡航が伴うプログラムであり、新しい視点からの地球の健康実現に向けた実地での交流と人材育成プログラムである。

【本事業で養成する人材像】

- ・日アの架け橋となり、友好的発展に向けリーダーシップを持ち、アクティブに活動展開できる人材
- ・地球規模の課題解決に向け、最新技術や考え方を柔軟に取り入れ、指導的な立場から展開できる人材
- ・異なる環境を理解し、地球の健康に関する問題を共に考え、解決に向けた活動に取り組める人材
- ・本事業で形成する基礎コミュニティーを自発的かつ持続的に発展させることができる人材

【本事業の特徴】

本事業は、日本とアフリカの学生が、文化、社会、言語を通して培ってきた各々の価値観や信念に向き合い、異なる環境や習慣や考え方を持つ者として、お互いの地域の社会課題を一緒になって議論することで、地球規模の問題解決に向けた取組を考え、実行できる能力を身につけることを目的とする。学生は、日本とアフリカという全く異なる環境や文化の相違を徐々に理解し対話を始めるために、まずは、オンラインで「慣らし運転」を始める。その後、離島やへき地というそれぞれのフィールドを実際に訪問する短期研修、さらに、医学や保健学、社会学などの専門分野を中心に研究活動を主体とする長期研修へと交流を深め、最終的には、それぞれの専門性から地球の健康に貢献しうる研究を実施する人材へと成長することを目指した包括的なプログラム構成を特徴としている。

【交流予定人数】

		2020	2021	2022	2023	2024
派遣	実際に渡航する学生	0	3	8	8	8
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	4	4	4	4	4
受入	実際に渡航する学生	0	4	8	8	8
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	4	4	4	4	4

2. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【プラネタリーヘルスの実現に向けた日ア戦略的共同教育プログラム】
(採択年度 令和2年度 タイプA)

■ 交流プログラムの実施状況

- (1) オンライン交流プログラムを実施
- (2) 長期研修プログラムによる日本学生の派遣を開始
- (3) 第2回PHASEプログラム日ケ運営委員会を開催



長期研修プログラムの活動風景

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

長期研修プログラム

相手大学・機関との交流協定に基づき、全学学部・研究科から学生を選考し、10月・11月・12月・1月に大学院生1名ずつ、1月・3月に学部学生1名ずつの派遣をそれぞれ開始し、派遣先大学の指導教員による指導のもと研究活動及びインターンシップを遂行した。

○ 日本人学生の派遣、外国人留学生の受入

オンライン交流プログラム

9月：短期研修プログラムに代わるプログラムとして、日ケ両学生が長崎大学におけるプラネタリーヘルスの取組みを学び、課題解決型プロジェクトに取り組んだ。互いの社会が抱える課題を協働して抽出し、さらに、日本とケニアの両学生で構成するグループワークでその課題解決策を共に考え具体的な方法を立案して発表した。

2月：日本とケニアの両学生がプラネタリーヘルスの問題に関心を持つことの重要性を理解し、日本とアフリカの架け橋の人材となるための素養を深めた。グループワークでは、互いの文化を知ることを通して、目に見えない自己の文化的価値観を認識し、グローバルな人材となるために、個人の長所・短所・ギャップについて自己意識を高めることができた。

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	7	22
学生の受入	8	21

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- (1) 第2回PHASEプログラム日ケ運営委員会を3月に開催
ケニア側連携大学・機関とプログラムの実施状況を共有し、今後の学生交流に向けた協議を進め交流プログラムの実施時期・プログラム内容について合意した。将来的な単位互換及びダブルディグリーの実現に向けてさらに協議を進める。
- (2) 相手国大学・機関との学術交流協定や学生交流の覚書の締結が完了

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・日本人学生の派遣時には本学アフリカ海外教育研究拠点ケニア駐在スタッフがオリエンテーションを実施し、緊急時には生活や精神的なサポートを行える環境が整った。
- ・外国人学生の受入時には留学生や研究員を対象にしたゲストハウス及び国際交流会館を優先的に割り当てられる体制を整えた。



長崎大学アフリカ海外教育研究拠点

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

- ・本学教養教育科目「プラネタリーヘルス入門」教材の英語化を実施し、オンライン交流プログラムにおいても、日本とケニアの両参加学生のプラネタリーヘルスへの理解を深めることができた。
- ・本プログラムのウェブサイトおよびYouTubeチャンネルにおいて事業及び交流プログラムの内容を日英両言語で情報を提供した。

■ グッドプラクティス等

PHASEプログラム長崎運営委員会を開催し、交流プログラム実施にかかる準備・調整を行うため各交流プログラムのワーキンググループを立上げプログラムの実施を推進した。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によるケニアにおける入国時の規制及び本学学生の派遣に関する規制が緩和されたことから、本学ケニア拠点の協力を得て長期研修プログラムによる6名の学生の派遣を開始した。さらに、本年度は2つのオンライン交流プログラムを実施し、計画を上回る日本学生16名及びケニア学生21名がグループワークにより共に様々なタスクに取り組み交流を深めた。3月にはPHASEプログラム日ケ運営委員会を実施し、相手国大学・機関の担当者とプログラム実施報告及び今後の予定について共有し、その後アンケート方式によるプログラム自己評価を実施した。